



本会記事

■広報委員会だより

第12回「おもしろ科学教室」（名古屋大学）での出展

令和2年1月13日(月)、名古屋大学において小学生を対象とした「おもしろ科学教室」が開催されました。このイベントは、本学会を含む7つの学会、大学及び協会等、あわせて11団体が共催の形で毎年実施しており、今年で12回目を迎えました。各団体がそれぞれの分野を子どもたちにわかりやすく伝えられるように工夫を凝らした講演会、工作教室、ブース展示を行いました。当日は、約300人の親子連れが来場し、子どもたちは講演を聞いたり、科学工作をしたりする間に、興味をもった展示ブースに立ち寄って、楽しんでいました。電波適正利用推進協議会では、磁石をとりつけた電池の上で銅線が電磁力で回転するものなどを展示し、子どもたちの関心を集めていました。

本学会では、プラズマと核融合に関連した科学技術を紹介、体験するブースとして、電子レンジ等を用いた「プラズマ放電実験」、超伝導体を使った「磁気浮上列車」の展示を行い、プラズマおよび核融合についてのクイズコーナーを設置しました。

当展示を見に来てくれた子どもたちは、プラズマボールに蛍光管を近づけ点灯することやネオンやアルゴンガスが封入された管が電子レンジの中で明るく輝く様子を観察しました。また、注射器型の放電実験装置を使って、圧力が下がっていくと放電が始まることを体験してもらいました。力を込めてピストンを引くと光の筋が現れることに興味をひかれていました。磁気浮上列車では、「隙間を変えてみて」「向きを変えてみて」などの注文をしながら、レールの上をすばやく走る様子を不思議そうに観察していました。クイズコーナーでは、お父さんと一緒にパンフレットを読みながらクイズの答えを探している様子が印象的でした。

初等中等教育においてSTEAM教育の推進が図られているようですが、このような展示を通して、まずは不思議だなと興味を持って、子どもたちがいろいろな視点から考えるきっかけにいただければと思っています。

本イベントには、広報委員会から吉沼幹朗（核融合研）、下妻隆（核融合研）、田中宏彦（名大）、中村圭司（中部大）と事務局から杉山恵子さん、石山千晶さんが参加しました。このように、広報委員会では、広く社会に向けた情報発信をめざし活動を行っています。広報活動に関するご意見や新しい展示物の案をお持ちの方がいらっしゃれば、ぜひ委員会までお寄せください。

今回の出展にあたり、愛知工業大学高井吉明先生はじめ実行スタッフの方々には大変お世話になりました。また、展示物については、核融合科学研究所様よりご提供いただきました。ご協力に感謝申し上げます。

(広報委員会)



プラズマボールに蛍光管を近づけたら光ったよ

学会賞候補者の募集について

第28回『論文賞』、第25回『技術進歩賞』、第25回『学術奨励賞』、第19回『産業技術賞』、第14回『貢献賞』、第3回『紅宝賞』の募集を開始いたします。募集についての詳しい内容は学会Web (<http://www.jspf.or.jp/award/youkou.html>) にアップしておりますので、ぜひごらんください。なお、2020年度『若手学会発表賞』の募集に関するお知らせは、後ほどいたします。

募集期限：2020年6月1日(月) 学会事務局必着